

3

運転するとき

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ	3-2
ライティングスイッチ	3-5
オートヘッドランプレベラー (自動光軸調整機構)	3-6
光軸調整ダイヤル	3-7
方向指示レバー	3-9
ワイパー&ウォッシュャースイッチ	3-10
フォグランプスイッチ	3-14
フロントワイパーデアイサースイッチ	3-15
リヤウインドウデフォッガー (曇り取り) スイッチ	3-15
ハザードランプ (非常点滅灯) スイッチ	3-16
パーキングランプ (駐車灯) スイッチ	3-17
ホーンスイッチ	3-17

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター	3-18
表示灯	3-21
警告灯	3-25

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた	3-30
駐車ブレーキレバー	3-32

マニュアル車の運転

チェンジレバー	3-33
---------	------

オートマチック車の運転

セレクトレバー	3-35
運転手順	3-39
スポーツシフト	3-43
スノーホールドモードスイッチ	3-45
Info-ECOモードスイッチ	3-46

AWD車の運転

運転するとき	3-47
ビスカスLSD付センターデフ方式フルタイムAWD	3-48
VTD-AWD	3-48
アクティブトルクスプリットAWD	3-49

サスペンション

セルフレベリングサスペンション	3-50
-----------------	------

VDC

ビークルダイナミクスコントロールシステム	3-51
----------------------	------

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム: ABS	3-56
ブレーキブースター (制動力倍力装置)	3-58

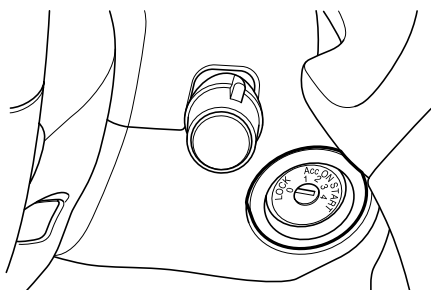
ハンドル

パワーステアリング	3-59
-----------	------

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ

■各位置の働き



300078

LOCK (ロック) 0	キーの抜き差しができる位置 キーを抜くとハンドルがロックされます
1	電源が切れる位置 マニュアル車はキーを押し込む位置 オートマチック車は、セレクトレバーが[P]にあるときは、この位置は使えません
Acc (アクセサリ) 2	エンジン停止時、次のものが使用できる位置 ワイパー、ウォッシャー、オーディオ、電源ソケット
ON (オン) 3	エンジン回転中の位置 全ての電装品に作動電源が供給されます
START (スタート) 4	エンジンを始動する位置

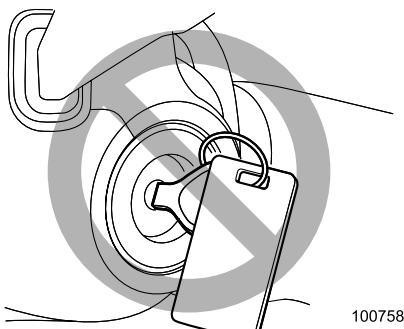
警告

走行中 LOCK にしないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ、操作できなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

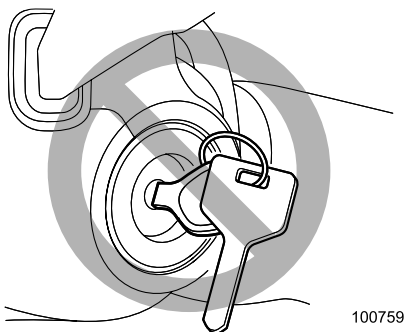
- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。大型のキーホルダーはキーに付けしないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けしないでください。また、重いものをキーに付けしないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリがかさなっているとき



100758

キーグリップに他のキーがかさなっているとき



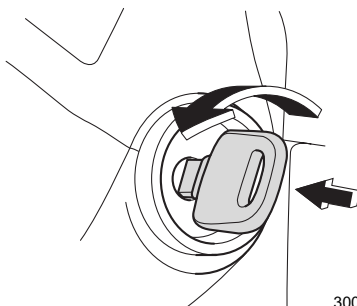
100759

🏠 アドバイス

- エンジンを止めているときスイッチをLOCKにしてください。
- 長時間ONにしたり、Accにして電装品を使うとバッテリー上がりの原因になります。
- キーがLOCKからAccに回らないときはハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。

■キーを抜くとき

オートマチック車は、セレクトレバーを **P** にしてキーをLOCKに回してください。
マニュアル車は、「1」（キーを手前に回すと動かなくなる位置、エンジンスイッチに1と刻印）でキーを押し込んでからLOCKに回してください。



300079

アドバイス

ルームランプを中間（ドア連動）位置、カーゴルームランプをDOOR位置にしている場合、キーを抜くと一旦点灯し、徐々に消灯します。

☆4-47ページ参照

■キー抜き忘れ警報

（キーを抜き忘れるとブザーが鳴ります）

キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴り、エンジンキー照明が点滅します。

ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■エンジンキー照明（イグニッションキー照明）

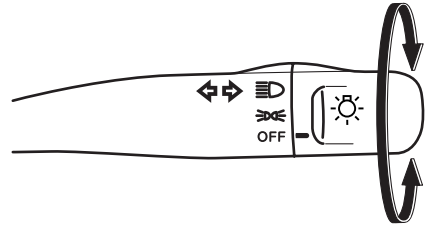
エンジンスイッチの周辺が点灯します。

運転席のドアを開けたとき点灯し、閉めた後も5秒間点灯し、その後消灯します。また、キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けると点滅します。ただし、エンジンスイッチがONのときは点滅しません。

ライティングスイッチ

ハンドルの右側のレバーがライティングスイッチです。

エンジンスイッチが ON のときスイッチを回すと次のようにランプが点灯します。



300080

スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯、メーター照明
OFF		消灯
☞☜	消灯	点灯
☞☜☞☜		点灯

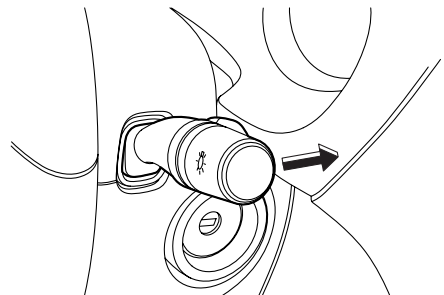


アドバイス

エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させないでください。バッテリー上がりを起こします。

■ヘッドランプの上下を切り替えるとき

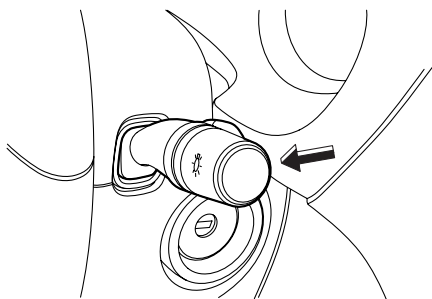
ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押しと上向きになります。
元に戻すと下向きになります。



300044

■合図のしかた（パッシング）

レバーを手前に引いている間、ヘッドランプの上向き、下向きが同時に点灯します。
ライティングスイッチがOFFでも使えます。



300045

オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）

下向きヘッドランプにHID（高輝度放電式ランプ）が装着されている車には、自動光軸調整機構がついています。

ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車の迷惑になります。そのため、同乗者および積載量から自動的に照射方向を調整し、最適に保ちます。



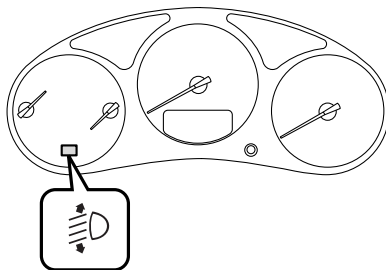
警告

HIDバルブは、高電圧を使用しています。感電防止のため、ランプを分解したり、改造したりしないでください。バルブの脱着、交換はスバル販売店にご相談ください。

■オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジンスイッチをONにしたとき約3秒間点灯し、消灯するのが正常です。

エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。



300749

注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- HIDバルブは、点灯、消灯を繰り返すとバルブの寿命が短くなる特性があります。信号待ちなど短時間の場合は、点灯したままの方がバルブが長持ちします。
- バルブが切れかかると、一般の蛍光灯と同じように、著しく明るさが低下したり、点滅したり、赤味を帯びた色になることがあります。そのような現象が現れるときは、スバル販売店にご相談ください。
- HIDランプは点灯するとき、安定するまでに若干明るさや色が変わることがあります。
- HIDランプは、発熱量が少ないため雪道走行の際、レンズ面に積もった雪が溶けにくい特性があります。雪を落として走行してください。

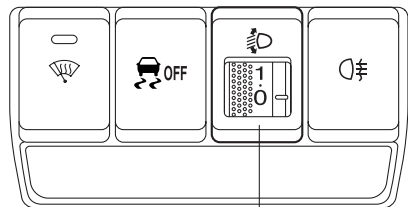
運転するとき

光軸調整ダイヤル

下向きヘッドランプにハロゲンランプが装着されている車には、光軸調整ダイヤルがついています。ヘッドランプの下向き点灯時に使います。

エンジンスイッチがONのとき使用できます。

- 同乗者および積載量によってヘッドランプが上向きを照らすことがあります。このようなとき、対向車の運転の妨げになるため、光軸調整ダイヤルを調整し、ヘッドランプが照らす向きを下側にしてください。
- ダイヤルの目盛りが大きくなるほどヘッドランプの照らす向きは下側になります。



光軸調整ダイヤル

300751

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 乗車人数、荷室への積載状態に応じて、下の表を参考にダイヤル位置を調整してください。

CROSS SPORTS車

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	3名	無
2	2名	3名	有※
3	1名	0名	有※
4	—	—	—
5	—	—	—

CROSS SPORTS車以外

- セルフレベリングサスペンション装着車

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
	2名	3名	無もしくは有※
1	—	—	—
2	1名	0名	有※
3	—	—	—
4	—	—	—
5	—	—	—

- セルフレベリングサスペンション装着車以外

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	—	—	—
2	2名	3名	無もしくは有※
3	—	—	—
4	—	—	—
5	1名	0名	有※

※最大許容重量まで積載した場合

アドバイス

- ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車に迷惑となります。対向車のフロントガラスや前を走る車のミラーを照らしているときは、光軸調整ダイヤルを操作してヘッドランプを下向きに調整してください。
- ハロゲンヘッドランプの光軸調整をするときは、光軸調整ダイヤルを「0」の位置にしてから行ってください。

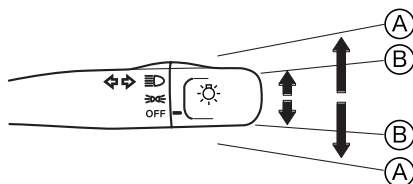
方向指示レバー

ハンドルの右側のレバーが方向指示レバーです。

エンジンスイッチがON のとき、レバーをⒶの位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。

右折あるいは左折後、ハンドルを戻すと自動的に戻りますが、戻らないときは手で戻してください。

☆3-21ページ参照



運転するとき

300081

アドバイス

車線変更の合図をするには

レバーを変更しようとする方向に軽く押さえしていると方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。(Ⓑ位置)


手を離すと元の位置に戻ります。

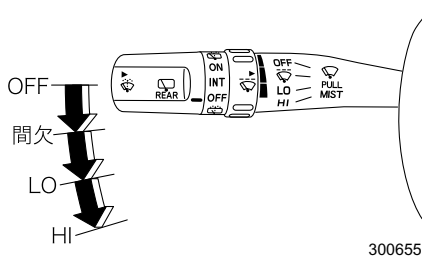
ワイパー&ウォッシャースイッチ

ハンドルの左側のレバーがワイパー&ウォッシャースイッチです
エンジンスイッチがAccまたはONのとき使用できます。

■フロントワイパーの作動

レバーを押し下げるとワイパーが作動します。

OFF	停止
	間欠作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動



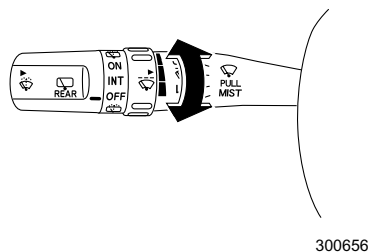
●間欠作動の時間調整

レバーを1段押し下げます。

リングを回し間欠作動の間隔を調整します。

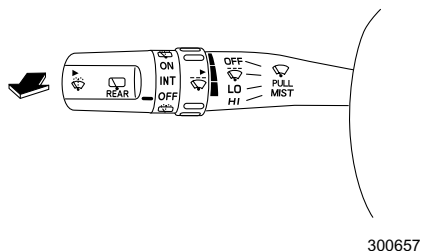
作動の間隔は2秒から16秒の間で調整できます。

リングを上に戻すと作動間隔が短くなり、下に回すと長くなります。



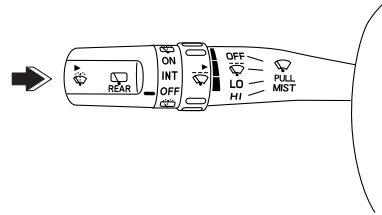
●ワイパーを手動で使いたいときには (MIST)

レバーを手前に引いている間、ワイパーが動きます。手を離すと停止します。



●フロントウォッシャー

スイッチを押している間、ウォッシャー液が噴射します。



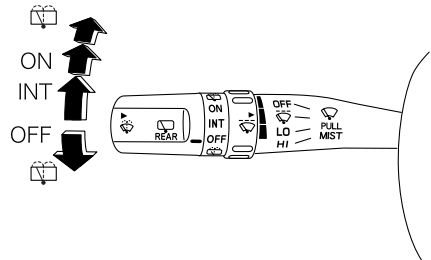
300658

アドバイス

スイッチを押すと連動してワイパーが1～2回動きます。



■リヤワイパー／ウォッシャーの作動

スイッチを回すと作動します。



300659

運転するとき

 (上側)	ウォッシャー液が噴射し、手を離すとONに戻ります。
ON	連続で作動
INT	間欠で作動 (9秒おき)
OFF	停止
 (下側)	ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。手を離すとOFFに戻ります。

アドバイス

- ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパーブレードに傷がつき、拭き残しの原因となります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
- ガラスに拭き残りができるときにはワイパーブレードのラバーを交換してください。

☆6-18ページ参照

- 寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防止します。
- ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。
 - ー フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを☞(デフロスター)にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。
 - ー リヤガラスは、リヤウインドウデフォグラーを使用してください。

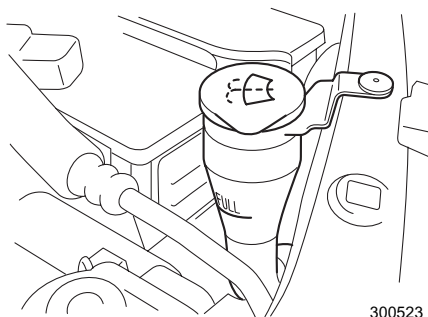
☆3-15、4-8ページ参照

- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にワイパーが止まることがあります。その場合には、車を安全な場所に停めて、一度ワイパースイッチをOFFにしてください。10分ほどするとブレーカーが復帰して通常使用できるようになります。
- ゴミなどがつまると、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

■ウォッシャータンク

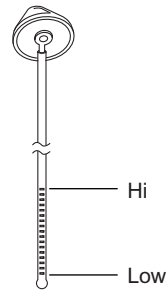
運転前にウォッシャー液の量を点検してください。

ボンネットを開け、向かって右側のヘッドランプ後ろに給水口があります。フロントとリヤの共用になっています。



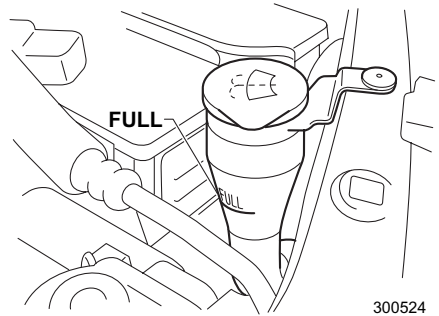
300523

キャップを外し、キャップに付いているレベルゲージで液量を点検します。



300172

レベルゲージ下部の穴（レベル）に液量の膜が付着していることを確認してください。付着していない場合、ウォッシャー液をレベルゲージのHiの位置、あるいは注入口のFULL位置まで補給してください。補給するときは、注入口のFULL位置以上ウォッシャー液を入れないでください。（FULL位置は、注水ホースのほぼ中央にあり、エンジン側に記載されています。リザーバタンクの脇から確認するか、注水口を覗き込んで確認してください。）



300524

運転するとき

⚠ 注意

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが暖まるまでは、ウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。

☆4-4ページ参照



- 降雪時、寒冷時には、ウォッシャー液を外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいと液がタンク内で凍りつくことがあります。

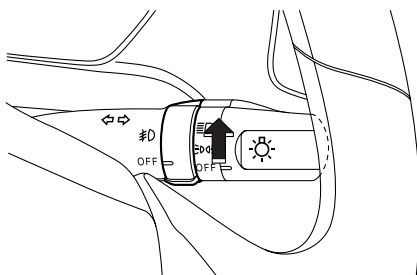
☆5-4ページ参照

- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物等が入らないよう注意してください。ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

フォグランプスイッチ

■フロントフォグランプスイッチ

エンジンスイッチがONでライティングスイッチがまたはのとき、スイッチを回すとフロントフォグランプが点灯します。フロントフォグランプ点灯中はメーター内の表示灯が点灯します。

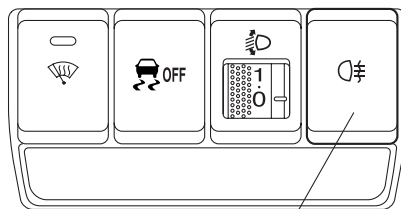


300053

■リヤフォグランプスイッチ

エンジンスイッチがONでフロントフォグランプまたはヘッドランプが点灯しているとき、スイッチを押すとリヤフォグランプが点灯します。

リヤフォグランプ点灯中はメーター内の表示灯が点灯します。



リヤフォグランプスイッチ

300054



アドバイス

- リヤフォグランプの消し忘れ防止のため、下記の操作をすると、リヤフォグランプは消灯します。
 - ー ライティングスイッチをOFFにした場合
 - ー フロントフォグランプスイッチをOFFにした場合
 再度リヤフォグランプを点灯させるには、ヘッドランプまたはフロントフォグランプを点灯させ、リヤフォグランプスイッチを押してください。
- フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計しているため、ヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることとなります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。
- リヤフォグランプは使用方法を誤ると、後続車へ迷惑をかけることとなります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪く、後続車に自分の位置を知らせる必要があるときにだけ使用してください。

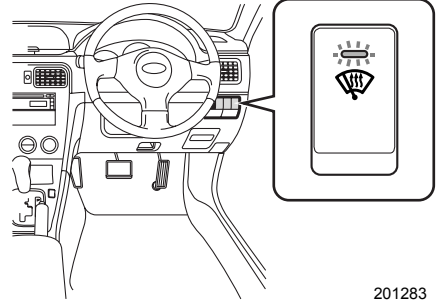
フロントワイパーデアイサースイッチ

フロントワイパーデアイサーは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。

フロントワイパーがガラスに凍結（ワイパー停止位置）しているとき、ガラスを暖めてワイパーが作動できるようにします。

電熱線はフロントガラスの下部にプリントしてあります。

- スイッチを押すとスイッチ内の表示灯が点灯し、フロントガラスの下側が暖められます。約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めたいときは、スイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯します）



201283



アドバイス

- ワイパーデアイサーは消費電力が大きいので必要なとき以外はスイッチを切ってください。長時間使い続けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 物が電熱線に当たらないように気をつけてください。
- デアイサースイッチを押すと、デアイサーの作動と連動してミラーヒーターが作動します。

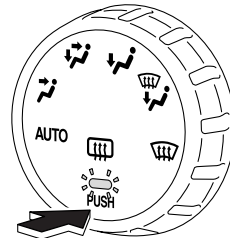
運転するとき

リヤウィンドウデフォグガー（曇り取り）スイッチ

リヤウィンドウデフォグガーは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。スイッチはエアコンの操作パネルの中にあります。リヤガラスの内側が曇ったときに使用します。

電熱線はリヤガラスにプリントしてあります。

- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯します）



300055

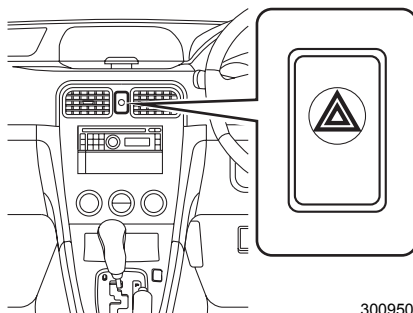
アドバイス

- 消費電力が大きいため長時間使用や雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラス内側の掃除時、電熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で電熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使わないでください。

ハザードランプ（非常点滅灯）スイッチ

ハザードランプは、エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

やむを得ず路上に駐車するとき、高速道路で渋滞の最後尾に近づいたとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。スイッチを押すと方向指示器が点滅します。



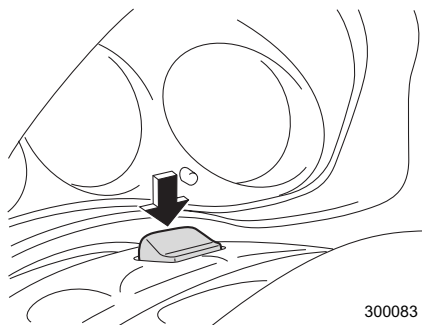
300950

アドバイス

- 非常のとき以外は使わないでください。
- 長時間、点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

パーキングランプ（駐車灯）スイッチ

夜間、路上に一時駐車するとき使用します。エンジンスイッチの位置に関係なく、コラムカバー上面のスイッチを押すと前後の駐車灯が点灯します。



300083

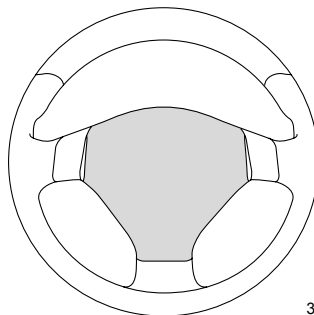


アドバイス

長時間点灯したままにすると、バッテリー上がりの原因になります。短時間の駐車にご利用ください。

ホーンスイッチ

ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。



300750



アドバイス

エンジンスイッチの位置に関係なくホーンを鳴らすことができます。

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター

■スピードメーター

車の走行速度を示します。

アドバイス

速度警告装置はついていません。
スピードを出し過ぎないようにしてください。

■ タコメーター（エンジン回転計）

毎分のエンジン回転数を示します。

注意

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないように運転してください。
指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。

アドバイス

- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転数が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

■フューエルメーター（燃料計）

燃料の残量を示します。指針が「E」に近づいたら早めに給油をしてください。

エンジンスイッチの位置に関係なく燃料の残量を示します。

☆2-15ページ参照



301071

注意

燃料給油は、必ずエンジンを止めて行ってください。

☆1-25ページ参照

アドバイス

- エンジンスイッチが切れているとき、温度変化や振動で指針が若干変わる場合があります。
- 補給後エンジンスイッチをONにしてから指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- 指針と消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- エンジンスイッチがONのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示されません。

■ 水温計

エンジンスイッチがONのとき、エンジン冷却水の温度を示します。

冷却水が暖まると指針はオーバーヒートゾーンより下（ゲージのほぼ中央）を示します。



300587

注意

指針がオーバーヒートゾーンを指したまま下がらないときは、オーバーヒートのおそれがあります。直ちに安全な場所に停車し、必要な処置（エンジンを冷やす）をしてください。

☆7-18ページ参照

アドバイス

エンジンスイッチがOFFのときは、指針は冷却水の温度に関係なく「C」を示します。

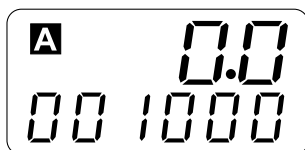
「H」：高温 (HOT)

「C」：低温 (COLD)

を示しています。

■オドメーター（積算距離計）

メーター下段に走行した総距離を km で表示します。



300088

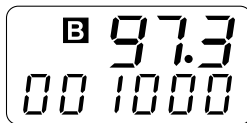
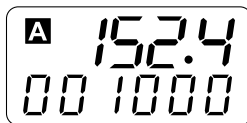
アドバイス

エンジンスイッチが「ON」以外の位置でもトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと、約10秒間バックライトが点灯し、オド／トリップメーターを表示します。

■トリップメーター（区間距離計）

メーター上段に表示され、ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。表示範囲は0.0 km～9999 kmです。0.0 km～999.9 kmでは0.1 km単位、1000 km～9999 kmでは1 km単位で積算します。

AとB、2種類の設定ができます。



300089

●トリップA、B切り替え

トリップ切り替え/トリップリセットノブを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

トリップメーターA → トリップメーターB



●トリップメーターA・Bを0に戻すとき

トリップAまたはトリップBのうち、リセットしたい方を表示させ、トリップ切り替え/トリップリセットノブを押し続けると0に戻ります。



アドバイス

エンジンスイッチが「ON」以外の位置でもトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと、約10秒間バックライトが点灯し、オド/トリップメーターを表示します。

表示灯

■方向指示器表示灯

方向指示器の点滅を示します。



アドバイス

方向指示器のバルブ（電球）やヒューズが切れたときあるいはワット数の異なったバルブ（電球）を使うと点滅の速さが異常になります。
すみやかに点検し、異常のあるバルブ（電球）やヒューズを交換してください。
☆6-20ページ参照

■スノーホールドモード表示灯（オートマチック車）

スノーホールドモードを選択したときに点灯します。



☆3-45ページ参照

■ハイビーム/パッシング表示灯

ヘッドランプが上向きするとき点灯します。
また、パッシング時も点灯します。



運転するとき

■Info-ECO(インフォ・エコ)モード表示灯(オートマチック車)

ECO

「ECO」スイッチを押してInfo-ECOモードを選択したときに点灯します。

表示灯が点灯中は、燃費の良い走行状態であることを示しています。

急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、一時的に通常モードに戻ります。このとき表示灯は消灯します。

☆3-46ページ参照



注意

Info-ECO モード表示灯が点滅を繰り返すときは、オートマチック制御システムの異常を知らせています。すみやかにスバル販売店に連絡してください。



アドバイス

Info-ECOモード表示灯は、エンジンスイッチONで点灯し、エンジンが始動してから約2秒後消灯します。

■VDC作動表示灯



VDC作動時は点滅します。このときブザー（ピピピ音）が鳴ります。

TCS作動時は点灯します。

☆3-51ページ参照



注意

エンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および、エンジンスイッチON後、約2秒たっても消灯しない場合はVDCの電子制御システムの異常が考えられます。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

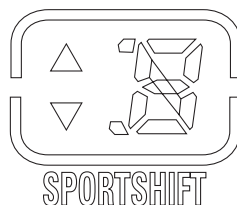
エンジンスイッチONで点灯、約2秒後消灯します。

■シフトポジション表示灯（スポーツシフト装着車）

セレクトレバーの位置やスポーツシフトでマニュアルモード選択時、現在のシフトポジションをデジタル表示します。

また、シフトアップ、シフトダウンへの変速が可能状態であるかを示す“△” / “▽”印が点灯します。

☆3-43ページ参照

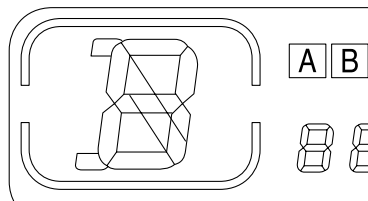


300059

■セレクトポジション表示灯（スポーツシフト装着車以外のオートマチック車）

セレクトレバーの位置を示します。

☆3-35ページ参照



300092

■外気温表示

外気温度を表示します。

スポーツシフト装着以外のオートマチック車

スポーツシフト装着のオートマチック車



300973



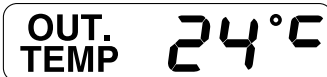
300974

次ページへ ⇒

⇒前ページより

マニュアル車

表示温度範囲は-30℃～50℃です。



300949

アドバイス

下記の場合、エンジンの熱や路面の照り返しにより、外気温度を正しく表示しないことがあります。

- 停車時
- 渋滞時
- 低速走行時
- 走行後の再始動時

■フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプが点灯しているとき表示灯が点灯します。



アドバイス

フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計していますのでヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることとなります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。

■リヤフォグランプ表示灯

リヤフォグランプが点灯しているときに表示灯が点灯します。



アドバイス

リヤフォグランプは使用方法を誤ると、後続車へ迷惑をかけることとなります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪く、後続車に自分の位置を知らせる必要があるときにだけ使用してください。

■イモビライザー表示灯

通常は点滅しています。
エンジンスイッチにキーを差し込むと消灯します。



注意

登録されていないキーを使用すると表示灯が点灯します。
☆2-3ページ参照

警 告 灯

■エンジン警告灯

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、エンジン電子制御システムに異常があると点灯します。



注意

エンジン回転中に点灯したときは、エンジン電子制御システムに異常があります。
高速走行を避け、直ちにスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

■ブレーキ警告灯

エンジン回転中、次の場合に点灯します。

- 駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないとき
- ブレーキ液が著しく不足しているとき
- エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD) の電子制御システムに異常があるとき

EBDの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。

☆3-58ページ参照



注意

- エンジン回転中に駐車ブレーキレバーを戻しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し点検を受けてください。
- ブレーキ液が正常で、ABS警告灯も同時に点灯している場合は、アンチロックブレーキシステム (ABS) に異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■シートベルト警告灯

エンジンスイッチがONのとき、運転者がシートベルトを装着していないときに点灯します。

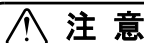
☆2-35ページ参照



■半ドア警告灯

エンジンスイッチの位置に関係なくドアが完全に閉じていないときに点灯します。

リヤゲートが完全に閉じていないときも点灯します。



注意

警告灯が点灯したままの状態で行きしないでください。

■燃料残量警告灯

エンジンスイッチがONのとき、燃料残量が下記の残量以下になると点灯します。

約9ℓ以下（ターボ車）

約7ℓ以下（ターボ車以外）



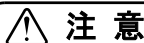
アドバイス

- 点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■オイルプレッシャー警告灯

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。



注意

走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてエンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が正常にもかかわらず点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。



アドバイス

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。
オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。

■チャージ警告灯



エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

⚠ 注意

エンジン回転中に点灯したときは、発電機の駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店で点検を受けてください。

■ABS警告灯



エンジンスイッチをONにしたとき約2秒間点灯し、消灯するのが正常です。
アンチロックブレーキシステム（ABS）の電子制御システムに異常があると点灯します。

☆3-56ページ参照

⚠ 注意

警告灯が点灯するとABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障ありませんが、滑りやすい路面では気をつけて運転し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

🏠 アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、車速12 km/hになったとき消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

■SRSエアバッグ警告灯




エンジンスイッチをONにしたとき約6秒間点灯し、消灯するのが正常です。
運転席・助手席エアバッグ、サイドエアバッグ（装着車）、シートベルトプリテンショナーのいずれかに異常があると点灯します。

⚠ 警告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

 **注意**


上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

■AWD警告灯（オートマチック車）

AWD

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。

VDC装着車およびクロススポーツターボ車以外	スペアタイヤに交換するためAWDを解除し、2WD（二輪駆動）にしたとき点灯します。また、異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき、または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅します。 ☆3-49ページ参照
VDC装着車およびクロススポーツターボ車	異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき、または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅します。

 **注意**

- AWD 警告灯が点滅したまま走行を続けると駆動装置が損傷する可能性があります。AWD 警告灯が点滅したときは、すみやかに安全な場所に駐車し、4本のタイヤ径が同じかどうか、また、タイヤのパンクもしくは空気圧の低下がないかどうか確認してください。
- タイヤに異常がない場合にはすみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■VDC警告灯/VDC OFF表示灯



- ビークルダイナミクスコントロール（VDC）、TCS機能が非作動状態（待機状態）のときは点灯します。VDC OFFスイッチを押してこれらの機能を非作動状態にしたときも点灯します。


VDC警告灯はエンジンスイッチONで点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。

- VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。

☆3-51ページ参照

 **注意****警告灯が点灯したままのとき**

- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動するため、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。VDCの付いていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯がエンジンを始動してから数分たっても消灯しない場合は、異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

 **アドバイス**

- 警告灯が下記の場合は正常です。
 - － エンジン始動後、警告灯が点灯したがすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
 - － 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。
- 寒い日の朝などにエンジンを始動させた場合、消灯までに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

■ オートヘッドランプレベラー警告灯 

エンジンスイッチをONにしたとき約3秒間点灯し、消灯するのが正常です。エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。

 **注意**

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動（マニュアル車）

●エンジンをかける前に

- ① 駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
- ② チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。

●エンジンのかけかた

- ① 運転席にすわり、ブレーキペダルを踏みます。
- ② クラッチペダルをいっぱいに踏みます。
- ③ エンジンスイッチにキーを差し込み、STARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）



アドバイス

<クラッチスタートシステム>

マニュアル車には誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らず、エンジンがかからないようになっています。

■エンジンの始動（オートマチック車）

●エンジンをかける前に

- ① 駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
- ② セレクトレバーがP[Ⓟ]であることを確認します。（N[Ⓟ]でも始動できますが、安全のためP[Ⓟ]で始動してください。）

●エンジンのかけかた

- ① 運転席にすわり、ブレーキペダルを踏みます。
- ② エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）



警告

車庫や屋内などの換気の悪いところで、エンジンをかけたままにしないでください。

車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。



注意

- エンジンを始動するときは必ず運転席にすわって行ってください。
- 10秒以上スターターを回し続けしないでください。スターターが故障の原因になります。かからないときは一旦スイッチをOFFに戻し、10秒間放置してからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回します。

🏠 アドバイス

- エンジンの始動直後は、急激な空吹きや、急加速などをしないでください。
- エンジンがかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドル回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- エンジンの始動はアクセルペダルを踏まずにエンジンが始動するまでエンジンスイッチをSTARTに回します。
- エンジンがかかりづらいときは、駐車ブレーキを再確認後、アクセルペダルをわずかに（1/4程度）踏み込んで、エンジンスイッチをSTARTに回します。エンジンがかからない場合は、アクセルペダルをいっぱい踏み込んで、エンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかかったらすみやかにアクセルペダルから足を離してください。
それでもかからないときは、もう一度アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかからなければスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- 使用するガソリンや使用状態（水温計の指針が動かない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンがかかりにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際、ライティングスイッチ、エアコンスイッチ、リヤウインドウデフォグスイッチをOFFにしたほうが、容易に始動します。
- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合があります。また、純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンがかかりにくい場合や、スパークプラグのくすぶりを引き起こすことがあります。
- 急発進、急加速時等、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

運転するとき

■ エンジンの停止

アイドル回転数に落としてからエンジンスイッチを切ります。

🏠 アドバイス

車両が停止した直後は、エンジン回転がアイドル回転数に戻るまで時間が多少かかることがあります。

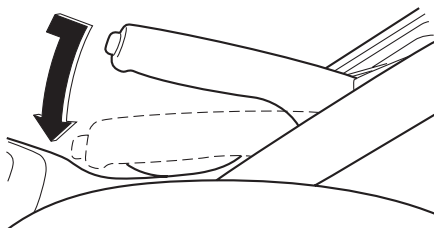
駐車ブレーキレバー

■使用するとき

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。同時にメーター内の「ブレーキ警告灯」も点灯します。

■戻すとき

レバーを軽く引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻します。戻したとき「ブレーキ警告灯」が消灯していることを確認してください。



300095



注意

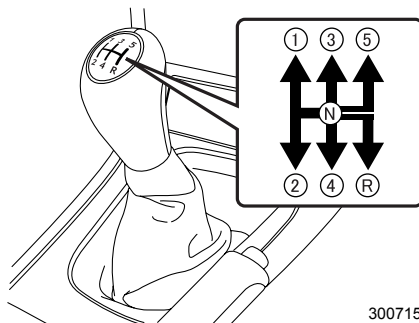
- 駐車するときは車が動きださないように確実に引いてください。
- 走行するときはレバーを完全に戻し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確かめてください。レバーを引いたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、後輪ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

マニュアル車の運転

チェンジレバー

■5速マニュアル車のチェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで確実に操作してください。



300715

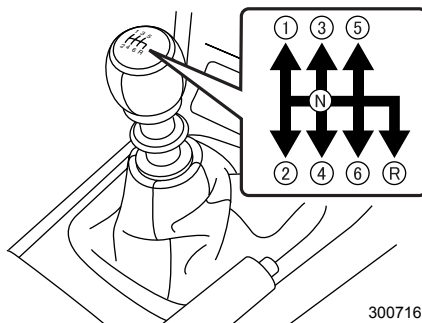


注意

5速マニュアル車は誤操作を防ぐため、“5” → “R” へ直入れることはできません。一度“N”に入れてから“R”に入れてください。

■6速マニュアル車のチェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで確実に操作してください。

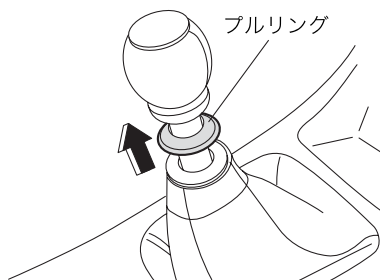


300716

“R”に入れるときはブルリングを引き上げたままレバーを操作してください。

“R”にするとブザーが鳴ります。

レバーを“N”に戻すと、ブルリングは元の位置に戻ります。



300099



注意

レバーを“N”に戻してもプルリングが元の位置に戻らないときはシステムの異常が考えられます。この場合スバル販売店で点検を受けてください。



注意

- “R”に入れるときは車が完全に止まり、エンジン回転がアイドリング回転まで下がってから入れてください。エンジン回転が高いままだとトランスミッションを損傷させることがあります。
- 半クラッチの連続使用はしないでください。クラッチ早期摩耗の原因になります。



アドバイス

変速時、ギヤが入りにくい場合は、一度クラッチを踏み直すと入りやすくなります。

オートマチック車の運転

セレクトレバー

■各位置での働き

<p>P</p> <p>(パーキング)</p>	<p>駐車およびエンジン始動位置</p>	<p>駐車の際は必ず駐車ブレーキをかけてPにしてください</p>
<p>R</p> <p>(リバース)</p>	<p>後退位置</p>	<p>ブザーが鳴り、ドライバーにRであることを知らせます。</p>
<p>N</p> <p>(ニュートラル)</p>	<p>中立位置</p>	
<p>D</p> <p>(ドライブ)</p>	<p>通常走行位置</p>	<p>車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて1速⇄2速⇄3速⇄4速を自動的に変速します。</p>
<p>3</p> <p>(サード)</p>	<p>登・降坂路走行位置</p>	<p>エンジンブレーキが必要なとき、登り坂走行などで使います。1速⇄2速⇄3速に自動的に変速します。</p>
<p>2</p> <p>(セカンド)</p>	<p>登・降坂路走行位置</p>	<p>さらに強くエンジンブレーキが必要なとき、急な登り坂、湿った砂地などで使います。1速⇄2速に自動的に変速します。</p>
<p>1</p> <p>(ファースト)</p>	<p>登・降坂路走行位置</p>	<p>強力なエンジンブレーキが必要なとき、急な登り坂、砂地、泥道からの脱出などに使います。1速に固定されます。</p>

☆1-10ページ参照

警告

発進時は絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

注意

- **P**でエンジンをかけてください。
- **N**でもエンジンはかかりますが、安全のため**P**でかけてください。
- **P**、**R**に入れるときは、車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- 切り返しするとき、**D**→**R**、**R**→**D**と何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルを確実に踏み、車を完全に止めてから行ってください。
- **R**に入るとブザーが鳴り、**R**であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。
- 後退した後は、すぐに**R**から**N**に戻す習慣をつけてください。

アドバイス

- オートマチック車は低水温時に暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常時より高回転側にしています。(暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。)
- 通常**D**で走行中はよりスムーズな走りを実現するため、下記の制御を行っております。

－Nコントロール

このトランスミッションには「Nコントロール」機能が装備されています。車が完全に停止した後、セレクトレバーが**D**のままアイドル状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。

「Nコントロール」機能が装備されているため、一時停止などからの再発進時、ブレーキペダルから足を離してギヤがつながるまで若干時間（約1秒）がかかります。

－登坂制御

登坂での不要なアップ・ダウンを防ぎます。

－降坂制御

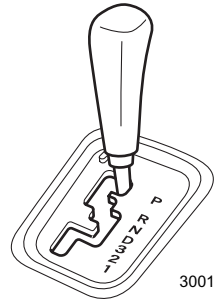
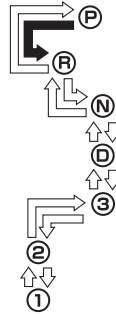
急な降坂路でブレーキを踏んだとき、エンジンブレーキを効かせるために通常より高い車速でシフトダウンする場合があります。

■ゲート式セレクトレバー&スポーツシフト付セレクトレバーの操作方法

●ゲート式セレクトレバー

レバーは、各位置で確実に止まるところまで動かしてください。

↓	ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。
↓	そのままゲートに沿って動かします。

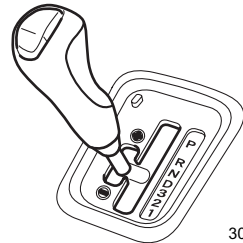
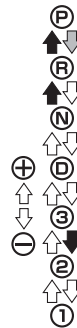


300100

●スポーツシフト付セレクトレバー

レバーは、各位置で確実に止まるところまで動かしてください。

↓	ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押して操作します。
↓	ボタンを押さずに操作します。
↓	ボタンを押したまま操作します。



300101

運転するとき

🏠 アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- **P**のときは、レバーを助手席側（スポーツシフト付セレクトレバーはレバーを手前側）に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチがLOCKまたはAccのときは、ブレーキペダルを踏んでも**P**から他の位置に切り替えられません。

■シフトロックシステム

セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

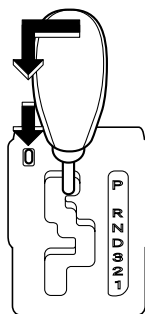
- [P]からのレバー操作は、エンジンスイッチをONにしブレーキペダルを踏まないと操作できません。
- ゲート式セレクトレバー装備車の場合、レバーを[P]から他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- [P]以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。
([P]以外ではキーをAccからLOCKに回せません)
- [N]でエンジンスイッチをOFFにした場合、しばらくするとレバーを[P]に操作することができなくなる場合がありますので直ちに[P]に操作してください。
もし、セレクトレバーが[N]から[P]に操作できないときは、エンジンスイッチをONにしてから[P]へ操作してください。あるいは、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーを[P]に操作してください。

●シフトロックの解除

バッテリー上がりやヒューズ切れ等で、セレクトレバーを[P]から動かすことができないときは、シフトロック解除ボタンを押してシフトロックの解除をします。

スポーツシフト装着車以外：

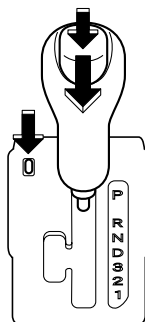
ブレーキペダルを踏みながら、シフトロック解除ボタンを押した状態でセレクトレバーを動かします。



100079

スポーツシフト装着車：

ブレーキペダルを踏みながら、シフトロック解除ボタンとセレクトレバーボタンを押した状態でセレクトレバーを動かします。



100549

この場合はシフトロックシステムの故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

運転手順

■エンジンをかける前に

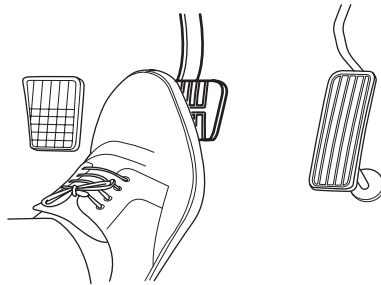
- ①正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、ハンドルの位置、シートの位置を調整してください。

☆2-24ページ参照

- ②アクセルペダルの位置を右足で確認します。
- ③ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

⚠ 注意

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。
(踏み間違いは事故につながるおそれがあります。)



300102

運転するとき

■エンジン始動

- ①駐車ブレーキレバーが確実に引いてあることを確認します。
- ②セレクトレバーが[P]であることを確認します。

⚠ 注意

[N]でも始動できますが、安全のため[P]で行ってください。

- ③ブレーキペダルを右足で踏んだまま（アクセルペダルは踏まないこと）
- ④エンジンスイッチをSTARTに回し、エンジンを始動します。

🏠 アドバイス

エンジンがかかりにくいときにアクセルペダルを踏みながら始動する場合は、始動してすぐブレーキペダルに踏み換えてください。

■発進

- ① ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。

警告

確実にブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると、急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

- ② セレクトレバーを[D]（前進）または[R]（後退）に入れます。
- ③ セレクトレバーの位置を確認します。
- ④ 駐車ブレーキレバーを戻します。
- ⑤ 右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換え、ゆっくりと加速します。

注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリーブ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

☆1-10ページ参照

- 後退するときには車の後方に人や障害物がないことを確認してください。車内でブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。

アドバイス

急な坂道での発進は、セレクトレバーの位置を確認し

- ① 駐車ブレーキレバーを引いたままブレーキペダルを離し、アクセルペダルをゆっくり踏みます。
- ② 車が動きだす感覚を確認しながら、駐車ブレーキレバーをゆっくりと解除して発進します。

■走行

通常の走行：

[D]で走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。

☆1-10ページ参照

上り坂では：

坂の勾配に応じ、セレクトレバーを③、②、①にしておく、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂では：

エンジンブレーキを併用してください。

☆1-18ページ参照

急な下り坂では：

セレクトレバーを②または①に入れると、さらに強いエンジンブレーキがかかります。

警告

走行中はセレクトレバーをNにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

アドバイス

急発進、急加速等、急なアクセル操作時にはまれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ 駐車

①車を完全に止めます。

注意

車が完全に止まらないうちにセレクトレバーをPに入れないでください。トランスミッション損傷の原因となります。


②ブレーキペダルを踏んだままの状態、駐車ブレーキレバーを確実に引きます。

③セレクトレバーをPに入れます。

セレクトレバーがPのときは、車が動きだす心配がなく、より安全です。


④エンジンを止めます。

☆1-21ページ参照

 **注意**


車から離れるときは、必ずセレクトレバーを[P]に入れ、エンジンを止めてください。

■停車


- ① のままブレーキペダルを確実に踏みます。


 **注意**

エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。


 **アドバイス**


アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂で[P]、[N]以外に入れた状態で、アクセルを吹かしながら車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

- ② 必要に応じて駐車ブレーキレバーを引きます。
③ 長時間停車するときは[P]にします。
④ 停車後、再発進するときは、セレクトレバーがにあることを確認して発進します。

 **注意**


- 空吹かしをしないでください。急発進の原因となります。
- 停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 急な上り坂での停車は、クリープ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。
- ブレーキペダルを踏み込み、確実に駐車ブレーキレバーを引いてください。

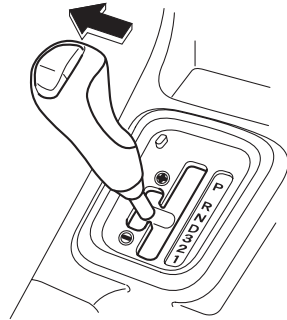
 **アドバイス**

オートマチック車には、「Nコントロール」機能が装備されています。車が完全に停止した後、セレクトレバーがのままアイドリング状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。再発進時はブレーキペダルから足を離してギヤがつながるまで若干時間（約1秒）がかかります。アクセルペダルを踏むとギヤはつながりますが、急な上り坂での再発進時は、駐車ブレーキを併用することをお奨めします。

スポーツシフト

■ マニュアルモード

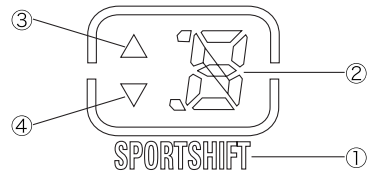
セレクトレバーを  からマニュアルゲートに動かすとマニュアルモードになります。



300103

■ シフトポジション表示灯

マニュアルモードが選択されると表示灯が点灯 (図中①) し、現在の变速ギヤの表示 (図中②) とアップ、ダウンの变速の可否をシフトアップ、シフトダウン可能表示灯の点灯によりお知らせします。(図中③、④) シフトアップ、シフトダウン可能表示灯が消灯している状態ではシフトアップ・ダウンはできません。



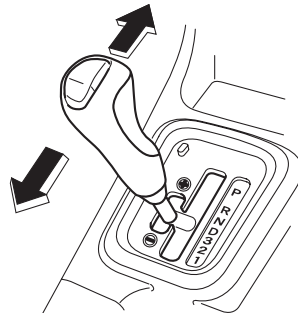
300061

- ① スポーツシフト表示灯
- ② 变速ギヤ表示
- ③ シフトアップ可能表示灯
- ④ シフトダウン可能表示灯

■ シフト操作

● セレクトレバー

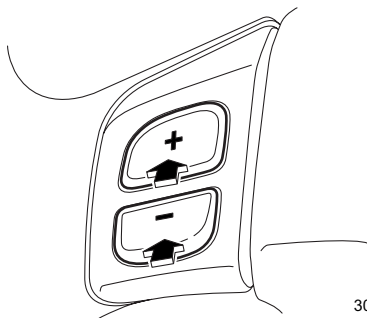
1 段上のギヤに変速するときはセレクトレバーを ⊕ 方向に押します。1 段下のギヤに変速するときはセレクトレバーを ⊖ 方向に引きます。



300104

●ステアリングスイッチ

1段上のギヤに変速するときは、ハンドル上のステアリングスイッチの⊕ボタンを押します。1段下のギヤに変速するときは、ハンドル上のステアリングスイッチの⊖ボタンを押します。



300106

●マニュアルモードの解除

マニュアルモードを解除するときは、セレクトレバーをマニュアルゲートから□に移動させます。

⚠ 注意

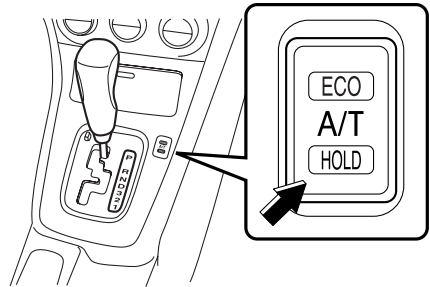
スポーツシフト操作時は以下の注意をよくお読みください。

- オートマチックトランスミッションの油温が通常時より低い場合、また高い場合、オートマチックトランスミッション保護のため、ピーピーピーとブザーが鳴り、シフト表示は“-”と表示されます。マニュアルゲートから□にレバーを戻してください。
- マニュアルモードでは自動的にシフトアップしません。そのときの道路状況に合わせて、エンジン回転がレッドゾーンに入らないように適切にシフトチェンジしてください。また、エンジン回転数が規定の回転数に達すると燃料カットが働きます。シフトアップ操作をしてください。
- シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジンの回転がレッドゾーン以上になる場合）でシフトダウン操作をした場合、“ピピ”とブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。
- 低過ぎる車速でシフトアップを行った場合、変速しません。
- セレクトレバーまたはシフトスイッチをすばやく2回操作すると、ギヤを1段飛びこします。
- 車が停車したとき、自動的にギヤは1速になります。
- マニュアルモードでは、スノーホールドモードスイッチをONにしてもマニュアルモードが優先されます。スノーホールドモードを使用する場合、マニュアルゲートから□にレバーを戻してください。

スノーホールドモードスイッチ

セレクタレバーが $\boxed{2}$ ・ $\boxed{3}$ ・ \boxed{D} のときスイッチを押すと2速からの発進となるため、雪道など滑りやすい路面ではなめらかに発進できます。スイッチをONにしたとき、変速は次のようになります。

セレクタレバー	変速
\boxed{D}	2速⇄3速⇄4速
$\boxed{3}$	2速⇄3速 発進時、極低速時は2速になります。
$\boxed{2}$	2速固定



300531



アドバイス

- セレクタレバーがどの位置にあってもスイッチは押せますが、機能が働くのは $\boxed{2}$ ・ $\boxed{3}$ ・ \boxed{D} のときだけです。
- スイッチを押すと、スノーホールドモードになり、メーター内の「HOLD」表示灯が点灯します。

☆3-21ページ参照

運転するとき

Info-ECOモードスイッチ

運転条件に応じて走行モード(ノーマルモード、Info-ECOモード)を選択するスイッチです。

●ノーマルモード

通常の走行で使用するモードです。

「ECO」スイッチがOFFで「ECO」表示灯は消灯しています。

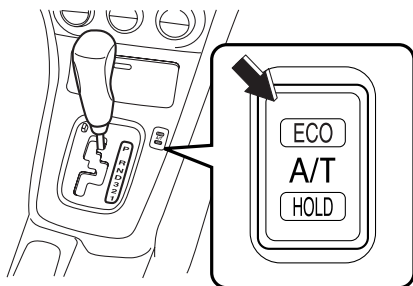
●Info-ECOモード

エンジンおよびオートマチックトランスミッションの最適な制御によって燃費を向上させるモードです。

「ECO」表示灯が点灯中は、エンジンおよびオートマチックトランスミッションが低燃費走行に最適な制御をしていることを示しています。

急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、一時的にノーマルモードに戻ります。このとき「ECO」表示灯は消灯します。

「ECO」表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費の良い走りかたができます。



300065

🏠 アドバイス

- スイッチが押されていないときは、「ノーマルモード」です。スイッチを押すと「Info-ECOモード」になり、メーター内の「ECO」表示灯が点灯します。また、走行中「ノーマルモード」に戻る場合は消灯します。

☆3-22ページ参照

- Info-ECOモード選択時にマニュアルモードにすると「ECO」表示灯が消灯し、Info-ECOモードは解除されます。

AWD車の運転

運転するとき

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ=全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪全てに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤが沈み込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。
この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WDより安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では十分にスピードを落とし、安全な速度で車間をとって慎重に走行してください。

警告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。
- 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、下記事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。

⇒前ページより

- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避け、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引、および後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

☆7-14ページ参照

ビスカスLSD付センターデフ方式フルタイムAWD

マニュアル車の機構です

ビスカスカップリング付センターデフ機構を採用しています。前後輪に回転差が生じたとき路面状況にあった駆動力が前後輪に配分され、雪道、ぬかるみ、滑りやすい路面で安定した走行性能を発揮します。

VTD-AWD

VDC装着車およびクロススポーツターボのオートマチック車の機構です

VTD-AWD（不等&可変トルク配分電子制御AWD）を採用しています。走行状態、路面状態に応じて前後輪の駆動力配分を電子制御し、あらゆる路面で安定した走行性能を発揮します。

アクティブトルクスプリットAWD

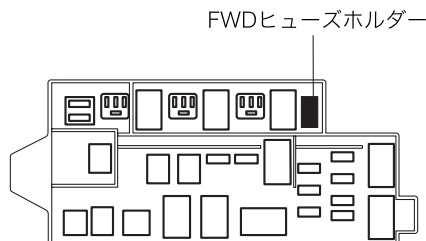
VDC装着車およびクロススポーツターボ車を除くオートマチック車の機構ですアクティブトルクスプリットAWDを採用しています。走行条件に合わせて前後輪の駆動力配分を電子的に制御し、常に安定した走行性能を発揮します。

■全輪駆動の強制解除

(VDC装着車およびクロススポーツターボ車を除くオートマチック車)
応急用スペアタイヤを装着するときは、全輪駆動を解除します。

- ① エンジンルーム内のFWDヒューズホルダーに、ヒューズカバー裏のスペアヒューズ(どれでも可能)を差しこみます。
- ② 全輪駆動が解除され、前二輪駆動になったときは、メーター内のAWD警告灯が点灯します。
- ③ タイヤの修理あるいは交換後、すみやかにFWDヒューズホルダーからスペアヒューズを抜いて全輪駆動状態に戻してください。
- ④ 抜いたスペアヒューズは、ヒューズカバー裏に戻します。

☆7-4ページ参照



300105

運転するとき

⚠ 注意

FWDヒューズホルダーからスペアヒューズを抜かずそのまま走行続けると、駆動装置が損傷する原因となります。

サスペンション

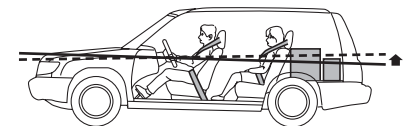
セルフレベリングサスペンション

リヤサスペンションのダンパーには、セルフレベリング（後輪車高調整）機能が組み込まれています。

荷物や乗員を乗せたときに車両後部が下がるのを防ぎ、通常的車高を保つように調整します。

■積載時

重い荷物や乗員を乗せると車両後部が下がりますが、しばらく走行すると、自動的に車両を通常的車高に調整します。



300532

■積載を降ろしたとき

荷物や乗員を降ろすと通常よりも車高が高くなりますが、しばらく走行すると自動的に通常的車高に戻ります。



300533



注意

最大積載重量を超えて使用しないでください。セルフレベリングサスペンションの故障の原因となります。



アドバイス

積載状態で長時間放置すると、徐々に車高は低下します。（積載量に応じて低下量は変化します。）

VDC

ビークルダイナミクスコントロールシステム

走行中、滑りやすい路面や障害物の緊急回避などのときには、車両が横滑りや尻振りを起こすことがあります。

VDC システムは、横滑りや尻振り、車輪が空転を起こしそうになると ABS 機能、トラクションコントロール (TCS) 機能および横滑りコントロール機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制して走行時の方向安定性を確保する装置です。

■トラクションコントロール (TCS) 機能

トラクションコントロール (TCS) 機能は、滑りやすい路面などで生じる駆動輪の空転を防止して駆動力、操舵能力を確保する機能です。

この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点灯します。

☆3-53ページ参照

●電子制御リミテッドスリップデファレンシャル (LSD) 機能

トラクションコントロール (TCS) 機能の中には、リミテッドスリップデファレンシャル (LSD) 機能も含まれます。この機能は、一般的なLSDの機能と同様に、左右輪の片輪がスリップ (空転) しそうになると、もう片方の車輪にも駆動力を伝え、滑りやすい路面上でも駆動力を確保する機能です。

■横滑りコントロール (VDC) 機能

急なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制し、車両の方向安定性を確保する装置です。

この機能が作動すると、VDC作動表示灯の点滅と同時にブザー (ピピピ音) が鳴ります。

☆3-53ページ参照

注意

- VDCを過信しないでください。VDCが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- VDCが作動するような路面では車速を充分に落として運転してください。
- サスペンション構成部品、ハンドル構成部品、アクスルの脱着時は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

次の事項は必ず守ってください

- 雪道走行するときは、冬用タイヤ (スタッドレスタイヤ) またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
- タイヤチェーンを装備するときは、5-2 ページの記載事項をお守りください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- VDC装着車であってもカーブなどの手前では、十分に速度を落としてください。
- VDCが正常に機能しなくなることがありますので、一般タイヤおよび冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときは、下記事項をお守りください。
 - － 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定された位置に装着してください。

☆8-6ページ参照



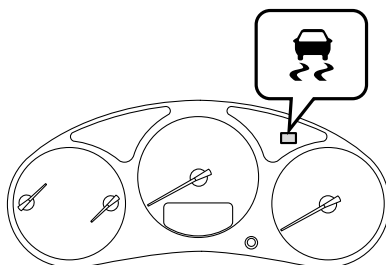
アドバイス

- VDCが作動したとき、ブレーキが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動や作動音を感じることがあります。これは、VDCが作動している状態で、正常です。
- エンジンをかけた後、および最初の発進時に、エンジンルーム付近から一時的に作動音がします。これは、VDCの作動をチェックしている音で正常です。
- エンジンをかけた後の発進時に、ブレーキペダルを踏み込むタイミングによっては、ペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じることがあります。これは、VDCの作動をチェックしている動きで、正常です。
- VDC が作動しているときはハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。
- 応急用スペアタイヤを使用する場合、必ず車両に搭載されているものを使用してください。
他のタイヤやホイールと組み合わせたもの、また、指定空気圧になっていない場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。
- タイヤ交換の際は必ずエンジンスイッチをOFFにしてください。
エンジンをかけたままタイヤ交換を行った場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。

☆6-15、7-3ページ参照

■VDC作動表示灯

VDC機能作動時は点滅します。このときブザー音（ピピピ音）が鳴ります。
TCS機能作動時は点灯します。



300067



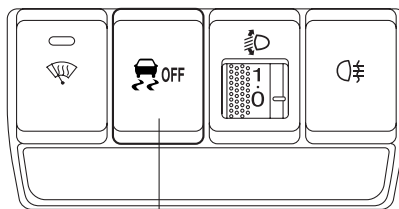
アドバイス

エンジンスイッチがONで点灯、約1秒後消灯するのが正常です。

■VDC OFFスイッチ

下記のような特殊な状況下においてTCS機能、VDC機能を一時的に解除して駆動輪を適度にスリップさせた方が走破性が向上するという場合に使用します。

- 雪や砂利などで覆われた急登坂路で発進するとき。
- むかるみ、深い雪にタイヤが埋まった状態から脱出するとき。



VDC OFFスイッチ

300534

- エンジン回転状態のとき、VDC OFFスイッチを押すと、VDC警告灯/VDC OFF表示灯が点灯し、VDC機能、TCS機能が作動停止状態になり、VDC機能、TCS機能が装備されていない車両と同じ走行性能になります。
ただし、作動停止状態でも電子制御LSD機能は残ります。
- 作動可能状態に復帰させるときには、もう一度VDC OFFスイッチを押します。



注意

VDC機能、TCS機能を解除したままにすると、駆動力を向上する機能、車両安定性を高める機能は働きません。
そのため必要なとき以外は、VDC機能、TCS機能を作動停止状態にしないでください。

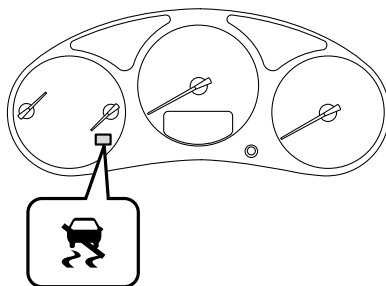
アドバイス

- VDC OFFスイッチを10秒以上押し続けるとメーター内のVDC警告灯/VDC OFF表示灯が消灯し、以後の操作を受け付けなくなりますが、これは正常です。
この場合は、一度エンジンスイッチを切り、再度エンジンを始動すれば元に戻ります。
- エンジンを始動すればVDC機能、TCS機能は自動的に作動可能状態になります。

■VDC警告灯/VDC OFF表示灯

VDC警告灯/VDC OFF表示灯は、以下の場合に点灯します。

- VDCの電子制御システムに異常があるとき。
- VDC機能、TCS機能が非作動状態（待機状態）のとき。
- VDC OFFスイッチを押してVDC機能、TCS機能を非作動状態にしたとき。



300068

注意

- 下記の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
 - － エンジンスイッチONで点灯しないとき
 - － 点灯したままのとき
 ただし、エンジンスイッチを一気にSTART（エンジン始動）にした場合、警告灯が点灯し続けることがあります。再度エンジンスイッチをOFFまで戻し、ONで約1秒止めてからSTART（エンジン始動）にして、消灯する場合は、異常ではありません。
上記の操作を繰り返しても点灯し続ける場合はシステムの異常です。
- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動するため、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。VDCのついていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯がエンジン始動してから数分たっても点灯し続ける場合は、異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

- VDC警告灯はエンジンスイッチONで点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯するのが正常です。また、次の場合も正常です。
 - － エンジン始動後、警告灯が点灯したがすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
 - － 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

☆3-28ページ参照

- 寒い朝などにエンジンを始動させた場合、消灯するまでに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。

ABSの電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドル操作について

ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。

ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。

注意

- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があります。ABSを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- 下記の路面などでABSが作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなる場合があります。
 - － マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
 - － 道路のつなぎ目などの段差
 - － 凹凸路、石畳などの悪路
 - － 下り坂での旋回
 - － 路肩に草や砂利が多い道路
 - － 砂利道
 - － 雪路（新雪路、圧雪路、アイスバーンなど）
- タイヤチェーン装着時にはABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなる場合があります。
とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しません。

アドバイス

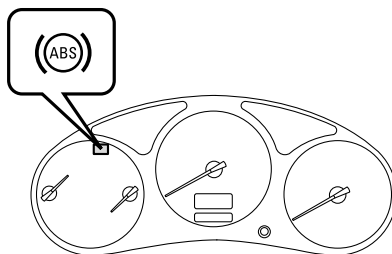
ABSが作動するとハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

■振動や音について

- ABSが作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じる場合があります。
これはABSが作動している状態を現しており異常ではありません。そのままブレーキペダルを確実に踏み続けてください。
- エンジンをかけた後、最初の発進時に以下の現象がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで、異常ではありません。
 - － エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
 - － ブレーキペダルを踏むタイミングによって、ペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにしたとき約2秒間点灯し、その後に消灯するのが正常です。



運転するとき

300155

⚠ 注意

警告灯が下記の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しない。
- 点灯したままのとき。

なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしては作動しません。)

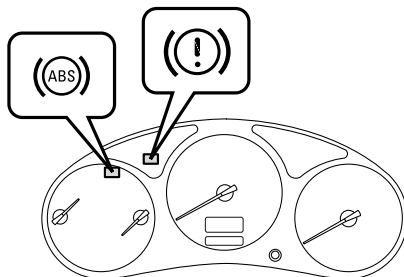
🏠 アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

●エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD)

ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールし、後輪の早期ロックを防止する機能です。



300156

⚠ 注意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯します。

点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

EBDシステムに異常があるときは、後輪がロックしやすくなります。

🏠 アドバイス

- EBDが作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯は駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☆3-25ページ参照

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

🏠 アドバイス

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。

エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などでブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと（減速、停止するとき）通常よりも強い力が必要になります。

ハンドル

パワーステアリング



アドバイス

- ハンドルを切ると、パワーステアリングポンプの作動音が変わることがありますが、異常ではありません。また、ハンドルをいっぱい切った状態ではさらに音が大きくなりますが、異常ではありません。
- 極低温時にオイルが低温で硬くなり、エンジンを始動したとき音がしますが異常ではありません。数分で消えます。

MEMO